民俗編　目次

はじめに　筑波大学教授　文学博士　宮田　登　日本民俗学会評議員　箱山貴太郎

第一編　伝統的な生活と生業――浅間山麓のくらし――

第一章　自然とくらし

第一節　風土の概観　箱山貴太郎

交通の要衝……9
別荘文化の影響……11
農村地域の変化……12
宿場の変化……13

追分にコレラが流行した話（コラム）……14

第二節　交通・交易と地場産業　東部町町誌編纂主任　長岡　克衛

村と町場……16
行商と移動販売……18
デーランボー（コラム）……20
馬の背……20
共有地の売却と住民意識……21
苗代の新工夫……22
天然氷とかんらん……23
蓑作り……25
蚕飼いと峠……25
峠と境……26
杣のかけ橋（コラム）……27

第二章　ムラのしくみと生業

第一節　ムラのしくみ　箱山貴太郎

生活の場……28
発地ムラ……29
発地村のしくみ……34
本村と枝村……35
第二節　ムラの類型
街　村……36
新興開拓村……38
同姓集団……39
同族の解体……41
第三節　ムラの生業　臼田高等学校教諭　田沢　直人
生業の特色……43
稲作の過程と工夫……45
冬仕事……52
畑仕事……53
養　蚕……54

第三章　家の生活

第一節　家と家の神

長野県史刊行会　小林　寛二

住居のつくり……56
屋敷神……59
便所神……63
えびす・大黒……63

第二節　家　族

箱山貴太郎

イ　エ……65
カロー塔……67
墓まいり……69
家族の動き……70
農家経営の変貌と家族……72

第四章　生活と行事

第一節　一日の生活　田沢　直人

農繁期……76
農閑期……76
食　事……77

第二節　年中行事　長岡　克衛

一　正月行事……78
二　小正月……84
三　春から夏……88
四　秋から冬……92

第三節　人の一生　日本民俗学会員　田口　光一

一　産　育……93
二　婚　姻……99

三　葬　送……104
碓氷貞光（コラム）……109

第五章　信仰と生活

第一節　信仰儀礼の諸相　小林　寛二
発地の事例……110
主な神社……112
神社の主な神事……112
玉垣明神の毒石（コラム）……113
白鬚神社の神事……114
主な寺院……116
浅間修験……118
民間信仰……120
講集団……122
釜が淵と家伝薬（コラム）……130
第二節　熊野皇大神社

社家と信者……131
神　棚……133
お　札……134
先祖まつり……135
第三節　民俗芸能　田口　光一
正月の獅子舞……135
峠の祭りにみる芸能……138
仏教芸能としての念仏……143
発祥地に伝誦する追分節……146
消えた芸能……147

第二編　避暑地軽井沢の生活

第一章　宿場町の生活と変貌

第一節　宿場の原風景　国立歴史民俗博物館助手　岩本　通弥

浅間根腰の三宿……153
町の景観と特性……155
業種構成の特色……157
宿場の気風……159
新軽井沢の誕生……160
街の個性と開発……162

第二節　宿場町の新しい装い

岩本　通弥　筑波大学大学院生　坂野　太一

中心としての中軽井沢……164
新たな産業の試み……166
製材・蚕種・馬喰……168
草津がよいの情景……172
運送曳きの活躍……176

第三節　別荘地・観光地化への対応

千ヶ滝開発の招来……181
浅間登山と観光地化……184
別荘地化による変化……186

玉菜屋と運送店……189
観光　レジャーブームの到来……191
対峙する「旧軽」と「中軽」……193
第四節　現代に生きる宿場町　筑波大学大学院生　重信　幸彦
出張店とアルバイター……197
農村の変貌・拡がる宿場……200
観光地化するタクシー……203
駅弁（コラム）……208
第二章　軽井沢の女たち　日本民俗学会員　倉石あつ子
第一節　ムラの女、マチの女
宿場の女……209
ムラの女……210
マチの女……211
第二節　別荘で働く女たち

外国人別荘のメイド……215
日本人別荘のお手伝い……218
第三節　別荘の女
良き時代の別荘生活……223
戦争中の別荘生活……226

第三章　別荘の人々

国学院大学助教授　倉石　忠彦

第一節　避暑客の生活
訪れる人々……228
大正時代の避暑地……229
貸しふとん屋……230
第二節　別荘の生活
避暑の魅力……231
別荘のくらし……233

食生活……234
別荘の建築……237
管理人とのつきあい……238
第三節　人々との交流
軽井沢会……240
外国人の交流……241
近隣の交流……243
町の人々との交流……246
南原地域について……246
東京大学名誉教授　経済学博士　松田　智雄……
第四章　外来文化の受容と交流
神戸芸術工科大学講師　今村　文彦
第一節　避暑地と外来文化
さまざまな出会い……248
外国人との出会い……250
移入される外来文化……254

住民の対応……258
外国人の付けた地名（コラム）……259
第二節　キリスト教と軽井沢
避暑地の教会……262
伝道活動……267
大日向とキリスト教……270
第三節　交流と交歓
廃れた伝統文化……273
祭りの変容と外国人の参加……275
広がる交歓の輪……277
はしがき　宮田　登

第三編　軽井沢の考現学

第一章　軽井沢のイメージ

第一節　文学の中の軽井沢　宮田　登

花袋と菊池寛……283
犀星の見方……284
堀辰雄の視点……287

第二節　描かれた軽井沢　今村　文彦　重信　幸彦

「読む街」軽井沢……289
伝統と大衆化……291
女性誌とアンノン族……292
狂奔する街……297
落書帳のなかの軽井沢……297
若者たちの共鳴……298
新しい出会い……300

第二章　イメージがうみだす「軽井沢」

第一節　うつろいの中の風景　今村　文彦

静寂と喧騒……302
新しいイベント……304
夏の一日……306

第二節　怪異のフォークロアより　重信　幸彦

奇事異聞譚……312
不思議な境……312
怪　談……315
迷路としてのフォークロア……315
メディアが描く「軽井沢」……317

第三節　創出された「軽井沢」　岩本　通弥

造られた「大自然」……318
温泉掘りへの情熱……321

高原での結婚式……325
「軽井沢」の魅力……329
参考文献……331
写真　資料ご協力者……334
話者・取材ご協力者……335
軽井沢町誌刊行委員会……337